

山形県酒田市生石2遺跡発掘調査概要報告3

Overview on Archaeological Excavation of the Oishi 2 site in
Sakata City, Yamagata Prefecture, Vol.3

青野 友哉 AONO Tomoya
北野 博司 KITANO Hiroshi
渡部 裕司 WATANABE Yuji

要 旨

本稿は山形県酒田市生石2遺跡の第3次調査の概要報告書である。本年度は、2022年度と同地区の標高15.5～16mの地点を6箇所試掘した。試掘調査の結果、古代の遺物が出土し、溝状遺構1箇所と自然流路1箇所を検出した。また、調査区北端では、古代以前の地層が砂層と礫層からなり、河川の氾濫原が広がっていることが明らかとなった。

1. 研究の目的

東北芸術工科大学では2020年度から「庄内地方の特性に基づく遺跡・遺物の活用の研究」を開始し、縄文～弥生時代を対象にした遺跡の調査・研究と現代における活用方法を探ることを目的としている。

本報告は上記の計画のうち2023年9月に実施した生石2遺跡第3次調査について概要を記したものである。遺跡の概要については既刊の概要報告(青野他 2021)に記載しているため、本稿では省略している。

2. 調査要項

遺 跡 名：生石(おいし)2遺跡

登 載 番 号：204-041

所 在 地：山形県酒田市生石登路田7-1,7-4,8-2

調 査 主 体：東北芸術工科大学(学長：中山ダイスケ)

発掘担当者：青野友哉(東北芸術工科大学)

調査参加者：東北芸術工科大学歴史遺産学科教授：北野博司、2年：大牧怜二郎・岡部 晏空・志斉 真尋・佐藤 壮輔・小川 達生・齋藤 宥樹・菅 凜歩・川上 茉央・本郷 紗弥子、3年：堀内 康介・堀籠 光太郎・門間 匠・村田 憶人・中村 悠河・高橋 望・石川 諒、4年：山田 幸風、山形大学4年：大沼 遥
作図・トレース：高橋 望

調 査 面 積：16㎡(2m×1m×6箇所、排水用掘削4㎡)

調 査 期 間：2023年9月25日(月)～9月29日(金)

出土文化財：土師器・須恵器・弥生土器

出 土 数 量：1箱[内寸679×367×122mm]

3. 発掘調査の方法

2023年度の調査区は東平田コミュニティ防災センターの東側の休耕地(芸工大2区)とし、遺跡の範囲確認と内容の把握を目指した。トレンチの規模は2m×1mとし、基本的に20m間隔で設置したが、北側と東側の土地の境界部分は10m間隔とした(図1・図2)。

掘削はすべて人力とし、表土層はスコップで行い、遺物包含層に達してからは移植ゴテを使用した。調査期間中は雨天が多く、また掘削により水が湧き出ることから、表土層の一部を掘削して排水溝とした。

遺物は遺構に伴うものは出土位置を記録したが、その他の土器は層位ごとに一括して取り上げた。

4. テストピットと遺構・遺物

各テストピットの調査結果は以下の通りである。遺構が検出されたのはテストピット8の溝状遺構と12の流路のみであった。

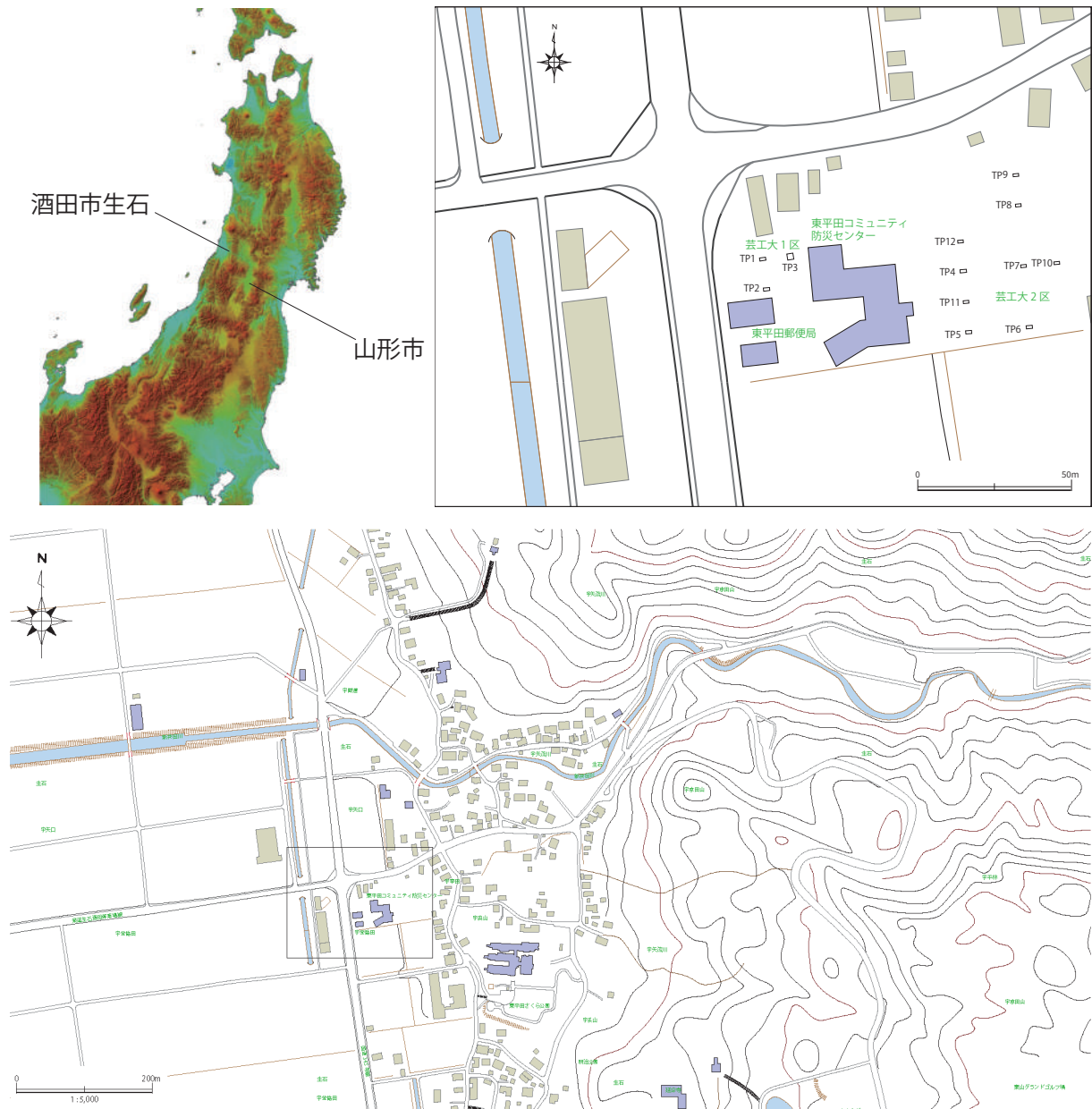


図1 酒田市生石2遺跡の位置(電子地形図(国土地理院)を加工して作成)

(1)テストピット7(図3、写真2)

2m×1mの範囲を掘削すると暗灰色土(I層)が水平に堆積し、一面が黄灰色土(II層)となった。I層は、現代の水田耕作土と判断し、II層上面で遺構確認をしたが遺構は存在しなかった。

(2)テストピット8(図3、写真3)

2m×1mの範囲を掘削すると暗褐色砂質土(I層)と暗灰色砂質土(II層)が水平に堆積しており、現代の水田耕作土と判断した。白灰色砂質土(IV層)の上面で遺構確認をした

ところ、幅20cmの溝が南北方向に存在することを確認した。溝状遺構の堆積土は暗褐色砂質土である。遺物は溝状遺構(1層)から須恵器が比較的多く出土した。

(3)テストピット9(図3、写真4)

テストピット9は調査区の北東端に位置する。茶褐色砂質土(I層)は水平に堆積し、II層との間が不整合面となっているため、現代の水田耕作土と判断した。

II a層は白色砂と褐色砂が互層をなし、水性堆積を示している。II b層は黒褐色シルトと白色砂の互層となっている。



図2 テストピットの配置図

Ⅱ層からは遺構は検出されなかったが、遺物は土師器・須恵器の破片が出土する。

遺跡北端の遺物包含層を確認するために、テストピット内の西側にサブトレンチを設定して部分的に掘り下げたと

ころ、砂礫層(Ⅲ層)と青灰色シルト層が堆積しており、河川の氾濫原であることが判明した。これらの層からは遺物は出土していない。

テストピットの北側約200mの位置には矢流川が流れて

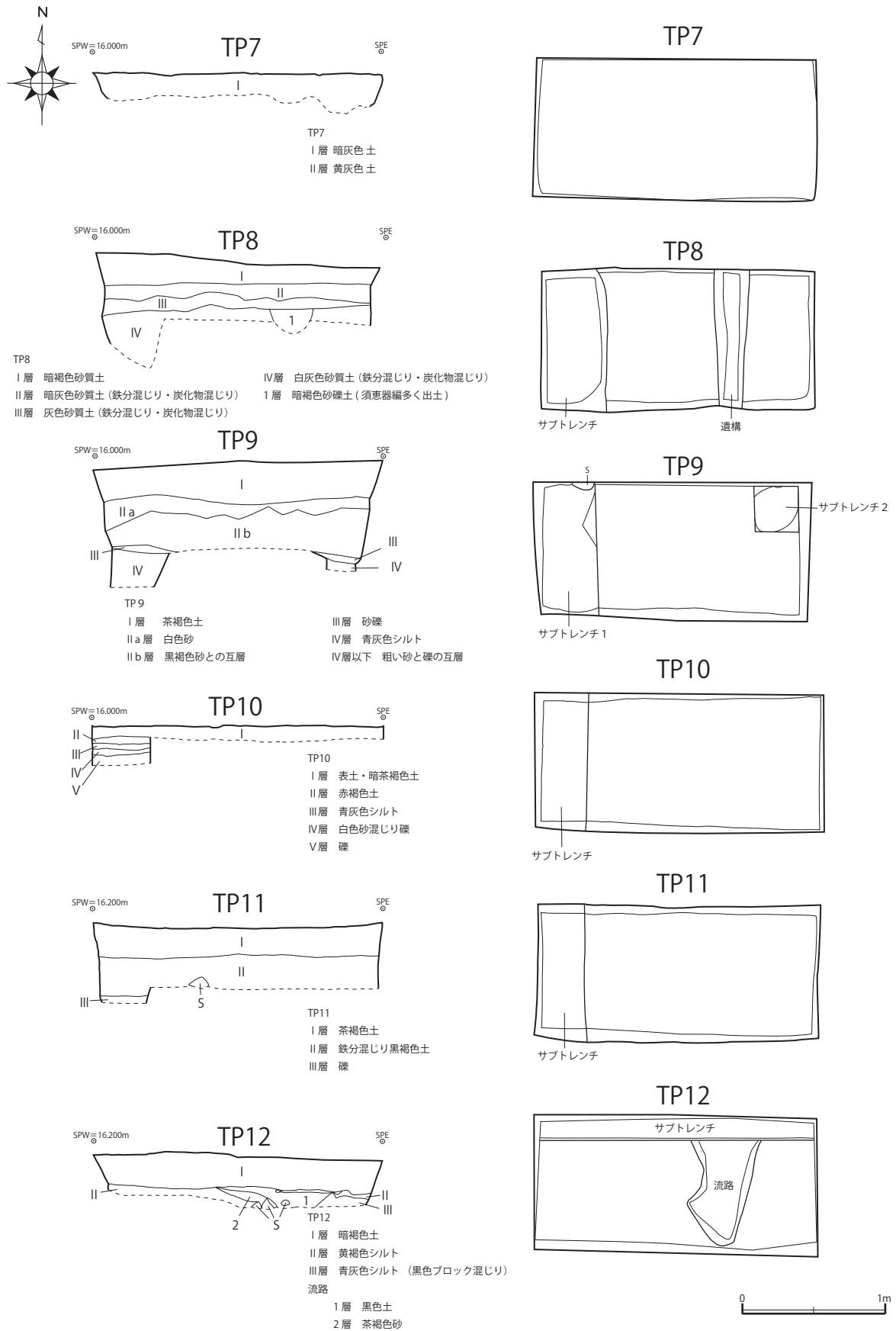


図3 テストピットの平面図及び断面図

おり、当該地が氾濫原堆積物による微高地上に形成された遺跡であることがわかる。

(4)テストピット10(図3、写真5)

テストピット10は調査区の東端の比較的標高の高い部分に位置する。表土層である暗茶褐色土(I層)を除去し、赤褐色土(II層)上面で遺構確認を行なった。遺構は検出されなかったため、テストピットの西側にサブトレンチを設定し部分的に掘り下げて堆積土層を確認した。その結果、下位の土層はシルト、白色砂、礫層からなる無遺物層であることが判明した。

(5)テストピット11(図3、写真6)

テストピット11は2022年度に調査したテストピット4と5の中間に設けた。土層は茶褐色土(I層)が水平に堆積しており、下位の黒褐色土(II層)とは不整合な面が見られることから、I層は現代の水田耕作土と判断した。掘削と同時に水が湧き出る状況であったため、排水溝も兼ねてテストピット西側にサブトレンチを掘削したところ、直下が礫層(III層)であることがわかったため、作業を終了した。

(6)テストピット12(図3、写真7)

土層は暗褐色土(I層)が水平に堆積しており、下位の黄褐色シルト(II層)とは不整合な面が見られることから、I層は現代の水田耕作土と判断した。II層上面では、黒色土が南北方向に帯状に連続しており、遺構である可能性を考えてサブトレンチを設定した。その結果、トレンチ内の東側と西側に黄褐色シルト(II層)が広がる中で中央に黒色土(I層)が堆積し、その下位には茶褐色の砂礫層(2層)が堆積していた。平面は不整形であることと、砂礫層からの流水が多いことから、これらは自然流路である可能性が高いと考えている。

遺物は1層から墨書の須恵器坏を含む土師器・須恵器片と弥生土器の小破片が出土している(写真8)。

河川の氾濫原堆積物であることが判明した。この堆積層は、調査区北側に位置する矢流川の氾濫により古代以前に形成されたものと考えられる。

謝辞

調査・報告にあたり、下記の機関および個人より協力を得た(敬称略)。庄司はつせ・庄司 博、石井憲吾、酒田市教育委員会、東平田コミュニティ防災センター、東平田郵便局東平田郷土史研究会(会長：大井隆雄)。

参考文献

- 青野友哉・北野博司・渡部裕司 2021「酒田市生石2遺跡発掘調査概要報告」『歴史遺産研究』第15号. 東北芸術工科大学. pp.51-58
- 青野友哉・渡部裕司 2023「酒田市生石2遺跡発掘調査概要報告2」『歴史遺産研究』第17号. 東北芸術工科大学. pp.59-62
- 酒田市教育委員会 1987『山形県酒田市生石2遺跡－宅地造成に伴う緊急発掘調査の概要－』pp.1-24
- 酒田市教育委員会 1995『山形県酒田市生石2遺跡－東平田コミュニティ防災センター建設に伴う緊急発掘調査の概要－』pp.1-10
- 山形県教育委員会・山形県埋蔵文化財緊急調査団 1985『酒田市生石2遺跡 第2次調査説明会資料』pp.1-13
- 山形県・山形県教育委員会 1985『生石2遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書 第89集. pp.1-34
- 山形県・山形県教育委員会 1987『生石2遺跡発掘調査報告書』(3)山形県埋蔵文化財調査報告書 第117集. pp.1-180

6. 成果と課題

2023年度の発掘調査では、標高15.5～16mの位置から古代の遺物の出土と溝状遺構1箇所、自然流路1箇所を検出した。また、遺跡の北端付近と考えられるテストピット9からは古代の層の下部に水性堆積を示す砂層と礫層が存在し、



写真1 調査区(芸工大2区・南西から撮影)



写真2 テストピット7の土層断面(北壁面)

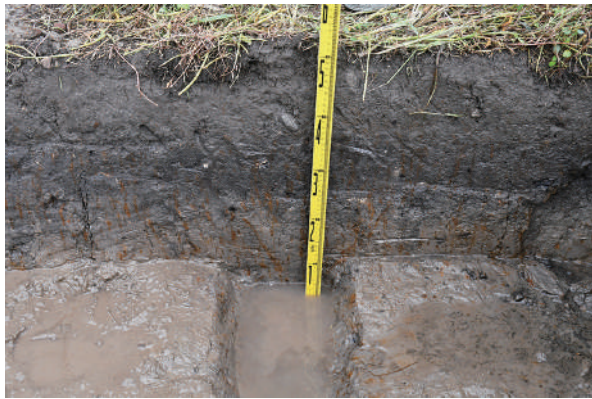


写真3 テストピット8の土層断面(北壁面)



写真4 テストピット9の土層断面(北壁面)



写真5 テストピット10の土層断面(北壁面)



写真6 テストピット11の調査風景(東から撮影)



写真7 テストピット12の土層断面(北壁面)



写真8 出土遺物(上段：TP8、下段：TP11)